

世論調査から見る政局 (- 2009.1.22)

1. 麻生内閣支持率...1月支持10%台に(不支持71%)、ワースト記録に挑戦。
日経のルール違反。定額給付金は反対69.3%に。
2. 自民・民主の政党支持率も逆転...(1月)共同・朝日・JNN・FNNの4社。
3. 政権交代への志向性...全マスコミ共通して「民主へ」「民主中心」
「党首力」でも小沢氏が麻生首相を圧倒

1. 麻生内閣支持率...1月の支持10%台に(不支持は71%)、ワースト記録に挑戦。

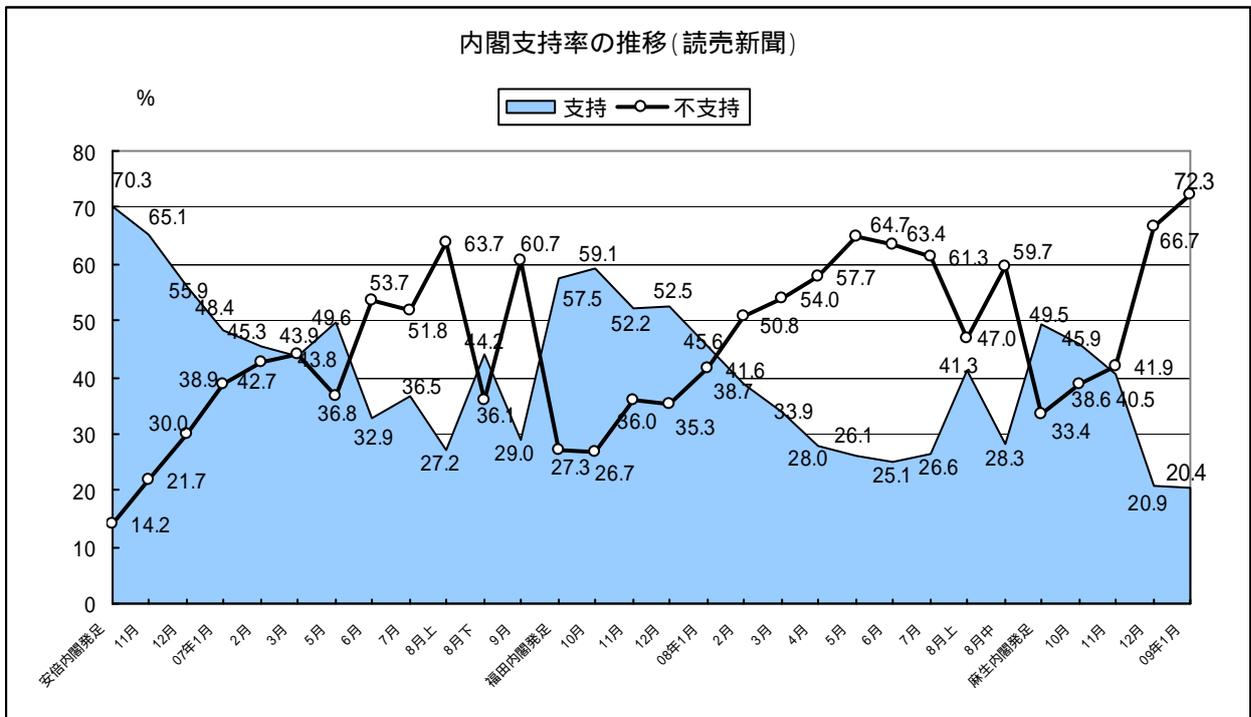
麻生内閣-直近の支持率1.22現在

	支持	不支持
NNN1.18	17.4	69.3
報2001-1.18	18.2	76.6
時事1.17	17.8	64.0
NHK1.13	20.0	71.0
ANN1.12	19.3	63.9
読売1.12	20.4	72.3
共同1.12	19.2	70.2
朝日1.12	19.0	67.0
JNN1.11	18.3	81.0
FNN1.11	18.2	71.4
日経12.29	21.0	73.0
毎日12.8	21.0	58.0
AVG	19.2	69.8
1月平均	18.8	70.7

1月の世論調査がほぼ出そろった。日経は来週になると思われるが、毎日の調査は今月はないかもしれない。22日現在では左表のようになっている。各社の直近調査の平均では支持が19.2%で平均でも20%を割ってしまった(不支持が69.8%)。1月だけの平均だと、支持は18.8%で、10%台に入ってしまった。不支持は70.7%。

支持が一番低いのは、NNN(日テレ)1.18報道のもので、17.4%。不支持が一番高いのはJNNの1.11報道による81.0%だった。

今回は読売新聞社の支持率推移をグラフにしてみた。さすがの読売の調査でも、支持率は20.4%まで低下し、不支持が72.3%にまで急上昇してしまった。不支持率は、安倍内閣の最悪記録が63.7%、福田内閣で64.7%だから、軽くこれをクリアして、どこまで続くのだろうか。もう限界は超えている。



歴代内閣の退陣前支持率
1991年以降のみ(調査年・月)
朝日新聞

森	9%	(01.2)	
麻生	19%	(09.1)	現在
福田	25%	(08.8)	
橋本	26%	(98.6)	
宮沢	26%	(93.4)	
安倍	33%	(07.8)	
村山	33%	(95.12)	
小淵	36%	(00.3)	
小泉	47%	(06.8)	
羽田	47%	(94.5)	
海部	50%	(91.9)	
細川	57%	(94.2)	

読売新聞

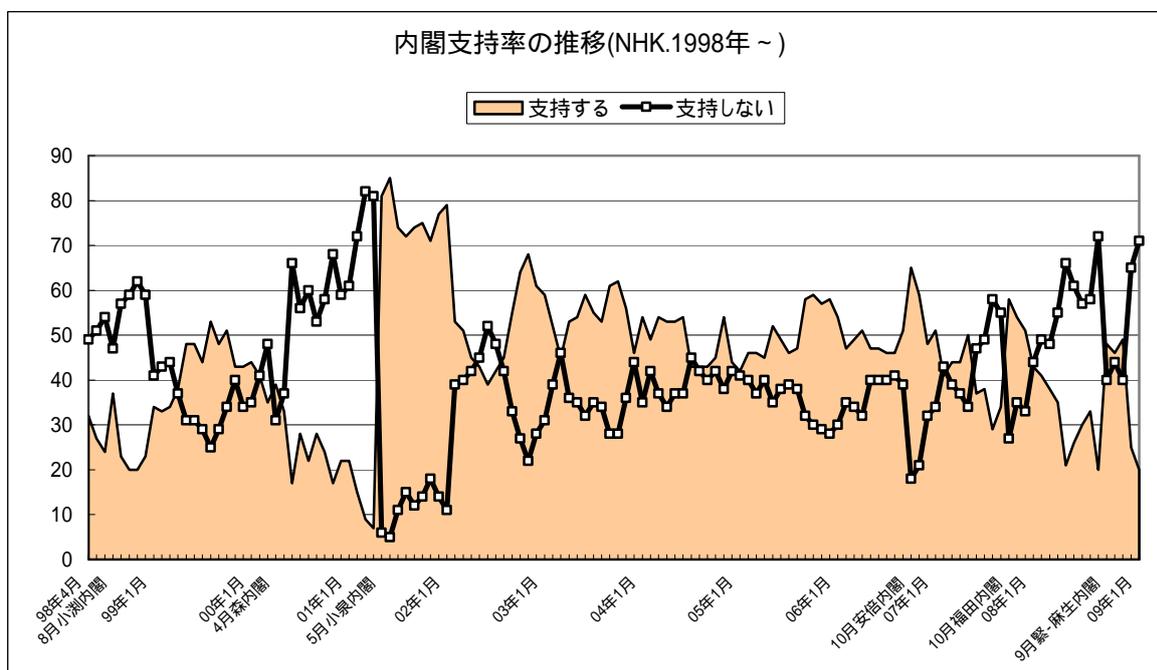
森	8.6%	(01.2)	
宮沢	10.4%	(93.6)	
麻生	20.4%	(09.1)	現在
福田	28.3%	(08.8)	
安倍	29.0%	(07.9)	
橋本	29.9%	(98.6)	
村山	35.4%	(95.12)	
小淵	40.7%	(00.3)	
羽田	48.2%	(94.6)	
海部	52.3%	(91.9)	
小泉	53.0%	(06.9)	
細川	55.1%	(94.3)	

麻生内閣の支持率は、歴代内閣の最悪記録に挑戦中だ。朝日新聞と読売新聞から、歴代内閣の退陣前の支持率をひろってみた(ただし1991年以降のもの)

朝日でも読売でも、ワースト記録を残しているのは森喜朗内閣だったが、麻生内閣はこの記録に近づいている。秋まで解散しないとやっているようだから、記録を塗り替えるかもしれない。

下のNHKのグラフ「内閣支持率の推移」(1998年から)をみてほしい。ここで注目するのは、グラフ中のやや左方。断崖絶壁のように急上昇した2001年4月に発足した小泉内閣の支持率だ。森内閣の末期の支持率が7%(不支持81%)から一気に支持81%、不支持6%へと逆転したのだ。やはり小泉内閣は自民党最後の政権だったのだ。「自民党をぶっ壊す」と宣言して登場した小泉純一郎という救世主が現れなかったら、自民党はとっくになくなっていただろう。NHKの調査としては第二位の細川内閣(93年8月)の記録である70%をはるかに上回った。

小泉内閣の支持率は02年2月、田中真紀子外相を更迭して急落するが(79% 53%)、9月の北朝鮮電撃訪問、03年9月のサプライズ人事(安倍幹事長起用)、04年5月北朝鮮再訪問(5人の拉致被害者帰国)、05年9月郵政解散総選挙など、「イベントとサプライズ」で支持率を何度も持ち直して、平均して40%~50%の比較的安定的な支持率を維持してきた。



小泉後の安倍・福田そして麻生内閣は、ご承知のように、総選挙の洗礼を受けないまま、相つぐピッチャー交代(党首力・投手力?)でリリーフに失敗してきた。麻生内閣の支持率グラフは、どうやらかつての森内閣のグラフと同じような絵柄を描きそうだが、その後には、もう救世主はいない。人材も枯渇しているし...

日経のルール違反 = 麻生内閣の支持率を水増し。

定額給付金は反対 69%に。しかし支給されれば「受け取る」86%

内閣支持率の調査で、日経新聞がルール違反をしていることに最近気がついた。麻生内閣発足直後から支持率調査の設問方法を変えていたのだ。手元の記録にある限りでは、日経の調査では2002年から、設問はシンプルに「あなたは 内閣を支持しますか、支持しませんか」と聞いた結果をそのまま数値にしてきていたのだが、昨年9月の調査からは、支持・不支持を答えず「言えない・分からない」と回答した方に、さらに(支持するか・支持しないか)「お気持ちに近い方をお答えいただけますでしょうか」と重ねて聞く方式に変えていたのだ。

定額給付金をめぐる評価
制度に対する評価

	肯定的	否定的
NNN1.18	27.0	70.7
NHK1.13	22	73
朝日1.12	28	63
共同1.12	23.7	70.5
ANN1.12	27	65
FNN1.11	16.6	77.9
JNN1.11	21	78
毎日12.8	21	70
読売12.8	28.2	59.2
日経12.1	26	66
AVG	24.1	69.3

別の使い方にした方がよい

	賛成	反対
読売1.12	78.1	11.3
ANN1.11	80	12
FNN1.11	79.8	16.8
AVG	79.3	13.4

支給されたら受け取るか

	受け取る	受け取らない
NNN1.18	89.4	5.4
JNN1.11	85	10
FNN1.11	84.8	11.4
AVG	86.4	8.9

低いのは12月のものだが読売の59.2%。やや幅があるが平均すると69.3%の人が反対していることになる。

さらに定額給付金はやめて別の使い道(福祉とか雇用に回すなど)にしたほうが良いと思っている人が、読売78.1%、ANNが80%、FNNも79.8%と、いずれもほぼ8割に達していることが分かった。

ただし、「定額給付金が支給されたら受け取るか」の設問には、「受け取る」がJNNで85%、FNNでは84.8%、NNNでは89.4%だ。有権者は「現実的な対応」をとるようだ。自民党が「とにかく金をばらまけば効果は出てくる」と読んでいるのは、このあたりの調査結果を見ているのかもしれない。

2. 自民・民主の政党支持率も逆転へ... (1月) 共同・朝日・JNN・FNNの4社。

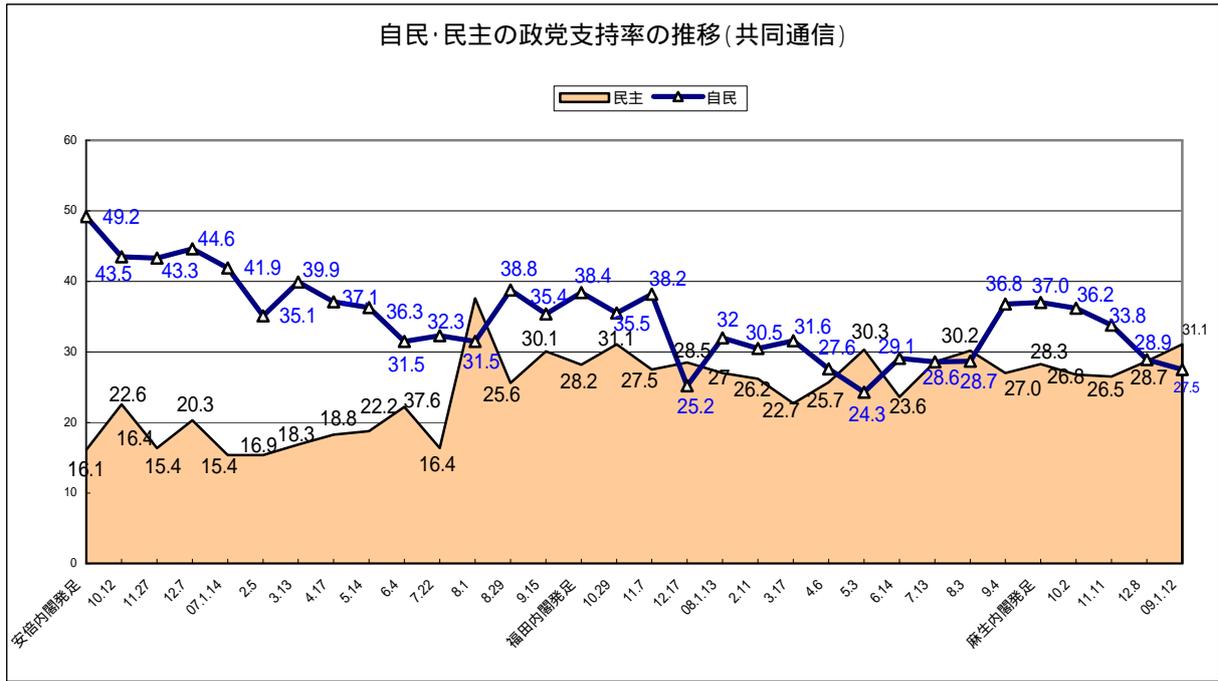
自民党と民主党との政党支持率も逆転し始めたのが最近の傾向だ。毎日新聞調査は10月のものから民主党支持率が自民党の支持率を上回り始めた。12月には読売新聞も民主28.2%・自民27.2%と逆転した。これは2007年8月(参院選で自民大敗の直後)以来のことだ。

これは「あいまい回答」をできるだけ減らす方法で、これ自体が問題だということではない。初めからそういう方法をとっているのなら、それはそういう方式だということのを考慮に入れればよいのだからかまわない。しかし途中から、過去からの設問方法を変えたことにより連続性が失われ、支持・不支持の回答が水増しされる形になった。これはやってはならないことなのだ。麻生内閣になってから設問方法を変えたのは「支持を少しでも高めに出したかった?」と勘ぐられてもしょうがない。

ちなみに日経の直近の調査(12.29)は「支持が21%・不支持は73%」という報道になっているが、昔からの、今までの方式で公表すると「支持は19%・不支持が68%」と、20%を切ることになるのだが...

12月と1月の世論調査では、定額給付金について聞いたものも多くなった。なにせ「財政制度等審議会(財務相の諮問機関)が定額給付金を撤回すべきだとの考えで大筋一致したことに対し、閣僚や与党幹部が1月16日、記者会見で相次いで反論」と報道されるような代物だ。これをまとめてみたものが左の表だ。

マスコミによって聞き方が違うが、定額給付金という制度に対する評価(賛否)では、肯定的な評価(賛成)はいずれも20%台で、平均すると24.1%となった。反対に定額給付金に対して否定的(反対)なのは、一番高いのがJNNの78%。



麻生内閣発足後の自民・民主支持率の変化 1.22現在

	自民党支持率			民主党支持率		
	発足直後	直近	差a	発足直後	直近	差b
NNN1.18	36.8	30.7	-6.1	25.6	27.5	1.9
時事1.17	23.4	18.7	-4.7	14.7	15.2	0.5
NHK1.13	37.3	28.4	-8.9	21.0	24.5	3.5
ANN1.12	45.2	33.7	-11.5	28.3	31.7	3.4
読売1.12	37.4	29.3	-8.1	22.8	26.2	3.4
共同1.12	37.0	27.5	-9.5	28.3	31.1	2.8
朝日1.12	34.0	24.0	-10.0	23.0	24.0	1.0
JNN1.11	36.3	24.3	-12.0	23.1	27.3	4.2
FNN1.11	31.7	23.4	-8.3	25.9	26.6	0.7
日経12.29	41.0	35.0	-6.0	31.0	33.0	2.0
毎日12.8	28.0	23.0	-5.0	22.0	24.0	2.0
AVG	35.3	27.1	-8.2	24.2	26.5	2.3

1月に入ってから、読売の逆転はなくなったが、今度は共同・朝日・JNN・FNNの4社で民主党支持率が自民党支持率を上回ってきた(ただし朝日は同率)。毎日の調査が出れば、おそらく今回も逆転は変わらないだろう。日経はどうなるか?

各社の直近の政党支持率の平均は、自民党が27.1%で、麻生内閣発足時の35.3%から8.2%減だ。民主党は26.5%で麻生内閣発足時よりも2.3%増。自民と民主の支持率の差も、わずか0.6%

だけになっている。

3. 政権交代への志向性...全マスコミ共通して「民主へ」「民主中心」「党首力」でも小沢氏が麻生首相を圧倒

世論の「政権交代への志向性」はどうなっているだろうか。麻生内閣発足以降の分だけを整理してみた。まず衆議院選挙の比例投票では、12月末以降は、すべてのマスコミ調査で、「民主党に投票」が「自民党に投票」を上回っている。

	自民支持			民主支持		
	自民に投票	比率	民主に投票	比率	民主に投票	比率
時事1.17	18.7	21.7	116%	15.2	37.1	244%
読売1.12	29.3	24.4	83%	26.2	39.2	150%
朝日1.12	24	25	104%	24	38	158%
共同1.12	27.5	26.3	96%	31.1	39.7	128%
FNN1.11	23.4	29.0	124%	26.6	41.5	156%
JNN1.11	24.3	20	82%	27.3	43	158%
日経12.29	35	24	69%	33	37	112%
AVG	27.3	24.8	93%	28.0	39.7	144%

を上回っている。

左表は、12月以降の政党支持率と比例投票先との比率を見たものだ。

この7社の自民支持率平均は27.3%、「自民に投票」が24.8%だから、その比率は93%

3%。自民党支持層すら「自民党に投票」しなくなっているのだ。これに対して、民主党支持率は28.0%だが、「民主に投票」と言っているのは39.7%あるから、その比率は144%。民主には4割強の味方がついている。

世論の政権交代への志向性(09年1月報道分)1.22 麻生内閣発足9.24以降の分

読売	衆院選で投票・比例		共同	政権は		毎日	勝ってほしい政党	
	自民へ	民主へ		自民中心	民主中心		自民	民主
9.26報道	37.0	29.5	9.26報道	38.1	43.8	9.26報道	41	37
10.13報道	38.9	31.4	10.20報道	38.3	43.0	10.20報道	36	48
11.4報道	32.2	30.6	11.11報道	36.1	43.2	12.8報道	29	46
12.8報道	24.2	40.2	12.8報道	33.1	45.4	JNN		
1.12報道	24.4	39.2	1.12報道	30.5	51.4	9.28報道	47	46
朝日			朝日			11.9報道	35	56
9.26報道	36	32	9.26報道	39	40	1.11報道	28	65
10.6報道	33	34	10.6報道	34	40	NNN		
10.15報道	32	32	10.15報道	32	38	9.26報道	37.8	44.3
10.28報道	33	30	10.28報道	33	37	10.13報道	39.6	41.6
11.11報道	30	33	11.11報道	29	40	11.10報道	39.2	42.6
12.8報道	28	36	12.8報道	29	43	12.14報道	32.2	47.7
1.12報道	25	38	1.12報道	24	44	1.18報道	29.2	53.0
共同			読売			FNN		
9.26報道	34.9	34.8	9.26報道	46.9	35.6	9.26報道	40.7	48.5
10.20報道	32.7	35.9	10.13報道	22.4	28.0			
11.11報道	33.6	35.5	11.4報道	18.8	20.3	読売	党首力	
12.8報道	27.4	38.3	12.8報道	12.2	20.8	12.8報道	麻生太郎	小沢一郎
1.12報道	26.3	39.7	1.12報道	11.6	21.7	1.12報道	28.8	36.4
日経			ANN			1.12報道	26.8	38.8
9.26報道	36	33	9.26報道	45	37	毎日		
10.27報道	36	31	10.5報道	42	39	12.8報道	19	21
12.29報道	24	37	11.16報道	39	42	共同		
時事			FNN			12.8報道	33.5	34.5
11.14報道	30.9	30.7	9.26報道	24.1	32.1	1.12報道	22.1	46.4
12.20報道	22.5	32.2	12.2報道	21.4	29.4	朝日		
1.17報道	21.7	37.1				12.8報道	30	35
毎日						1.12報道	26	35
10.20報道	25	38				NHK		
12.8報道	22	36				1.13報道	12	25
FNN						JNN		
9.26報道	36.0	39.3				12.8報道	31	33
1.11報道	29.0	41.5				1.11報道	23	40
NNN						時事		
10.13報道	35.4	32.5				12.20報道	23.9	34.8
JNN						1.17報道	20.8	39.2
9.28報道	34	35				FNN		
12.7報道	27	37				12.2報道	8.8	11.4
1.11報道	20	43				1.11報道	5.9	13.2
						NNN		
						11.9報道	53.5	22.5
						12.14報道	29.0	32.2

次いで、来るべき政権は「民主中心」と「自民中心」のどちらに期待するかも、「民主党を中心にした政権」が「自民党を中心にした政権」を上回っている。勝ってほしい政党でも同じく、この傾向は変わっていない。もはや動かし難い客観的な情勢となってしまっている。

新しい調査ものとして、「党首力」というのが注目を集めてきた。それは12月以降、野党・民主党の小沢代表が、権力トップの麻生総理大臣より「首相にふさわしい」「首相に期待する」人物として比率を高めてきたからだ。

この「党首力」という言葉は、昨年の参議院選挙の前段から登場してきたものだと思う。「選挙戦の帰趨は党首力で決まる。安倍か、それとも小沢か」などと書かれていた記憶がある。しかし力という言葉は、どうも流行言葉のようで、いつまで使われることだろうか？

アメリカのオバマとマケインが人気争いをしていたり、イギリスやフランスの与野党の党首が人気争いをやっているような報道はあるが、そもそも日本では、野党の党首が現職の首相より「首相にふさわしい人物だ」なんていう調査結果は見たことがなかった。この「党首力」調査も政権交代期の新しい要素と考えておこう。

テレビ系世論調査はなじみが少ないので説明しておく。...ANN(報道ステーションなど)、NNN(日テレ系)、JNN(TBS、ニュース23など)、FNN(フジ・産経グループ)、報2001(新報道2001)